

入曽地区の中学校の統廃合 に関する計画（提言）

平成25年11月

入曽地区中学校統廃合検討協議会

目 次

1	計画策定の趣旨	1
2	中学校の生徒数等の推移と今後の見通し	1
3	中学校の規模と配置の適正化の必要性と方法	3
4	中学校の統廃合に関する基本的な合意事項	3
5	統廃合後の中学校の生徒数等の見通し	4
6	統廃合に伴う通学路の取扱い	5
7	統廃合に伴う制服等の取扱い	5
8	統合先の中学校の環境整備	6
9	統廃合にあたっての留意事項	7
10	跡地の活用等	8
11	説明会の開催等	8
12	検討協議会の検討経過	10
13	むすびに	13

資料 1 入曽地区中学校通学区域図

資料 2 山王中学校通学路（案）

資料 3 入間野中学校通学路（案）

資料 4-1 入間中学校 1 年生保護者中学校統廃合アンケート調査結果

資料 4-2 南小学校保護者中学校統廃合アンケート調査結果

資料 4-3 入間野中学校 1 年生保護者中学校統廃合アンケート調査結果

資料 4-4 山王中学校 1 年生保護者中学校統廃合アンケート調査結果

資料 4-5 御狩場小学校 5・6 年生保護者中学校統廃合アンケート調査結果

資料 5 統廃合までのスケジュール（案）

資料 6 入曽地区中学校統廃合検討協議会委員名簿

1 計画策定の趣旨

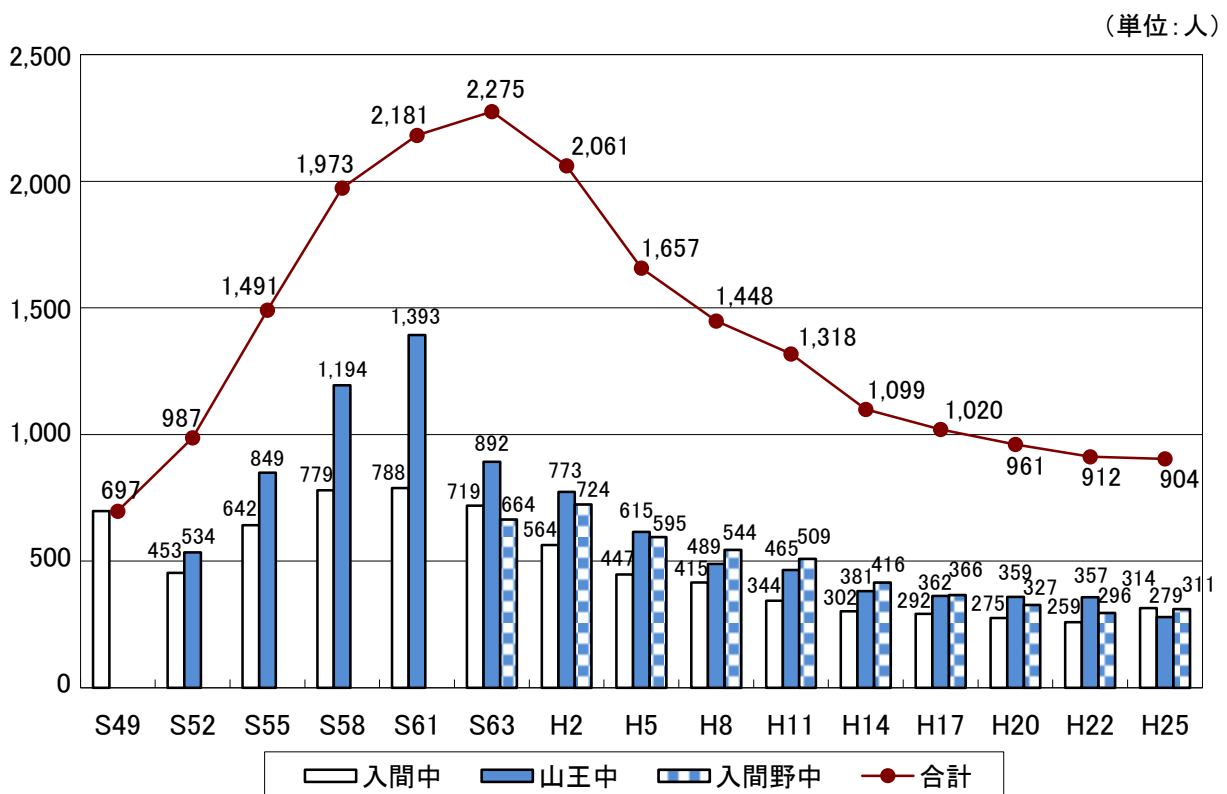
狭山市教育委員会では、「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）を平成19年9月に策定し、このなかで、入曽地区については、小学校2校とともに、中学校1校について統廃合の検討が必要であるとしている。

これを受けて、入曽地区では、生徒の保護者、自治会関係者、地域住民の代表及び関係する中学校の学校長等で組織する入曽地区中学校統廃合検討協議会を平成22年12月に設置し、統廃合の是非も含め、具体的な検討を進めてきた。

この計画は、本協議会における検討協議の結果をとりまとめたものであり、これを提言という形で、狭山市教育委員会へ提出するものである。

2 中学校の生徒数等の推移と今後の見通し

生徒数の推移



区 分	S49	S52	S55	S58	S61	S63	H2	H5	H8	H11	H14	H17	H20	H22	H25
入 間 中	697	453	642	779	788	719	564	447	415	344	302	292	275	259	314
山 王 中		534	849	1,194	1,393	892	773	615	489	465	381	362	359	357	279
入間野中						664	724	595	544	509	416	366	327	296	311
合 計	697	987	1,491	1,973	2,181	2,275	2,061	1,657	1,448	1,318	1,099	1,020	961	912	904

注) 特別支援学級の生徒数は含まれていない。

学級数の推移

区 分	S49	S52	S55	S58	S61	S63	H2	H5	H8	H11	H14	H17	H20	H22	H25
入 間 中	18	12	16	19	18	17	15	13	11	10	9	9	9	8	9
山 王 中		13	20	28	33	21	20	17	14	13	11	11	11	11	9
入間野中						16	19	17	15	15	12	11	10	9	9
合 計	18	25	36	47	51	54	54	47	40	38	32	31	30	28	27

注) 特別支援学級の数に含まれていない。

入曽地区の中学校の生徒数は、昭和63年をピークに減少を続け、平成25年には、ピーク時に比べて約60%減少している。

学級数も、昭和63年をピークに減少を続け、平成25年には、ピーク時に比べて50%減少している。

生徒数・学級数の推計

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入 間 中	314 9	317 9	327 9	320 9	316 9	315 9	303 9
山 王 中	279 (13) 9 (3)	303 (13) 10 (3)	297 (13) 10 (3)	310 (13) 10 (3)	277 (13) 9 (3)	275 (13) 9 (3)	276 (13) 9 (3)
入間野中	311 9	319 9	333 10	320 9	299 9	269 9	300 10
合 計	904 (13) 27 (3)	939 (13) 28 (3)	957 (13) 29 (3)	950 (13) 28 (3)	892 (13) 27 (3)	859 (13) 27 (3)	879 (13) 28 (3)

1) 上段は生徒数、下段は学級数で、() 内は特別支援学級で外数。

2) 学級数は、中学1年生は38人、中学2・3年生は40人で算出。

入曽地区の中学校の生徒数は、平成26年、平成27年には増加するものの、その後は全体的に減少傾向になると推測される。

学級数は、現在、各校とも9学級であり、基本方針のなかで示されている中学校の適正規模（12～18学級）からすると、既に小規模の状態にあり、この状態は、今後も続いていくと見込まれる。

3 中学校の規模と配置の適正化の必要性と方法

入曽地区の中学校については、各校とも、小規模の状態が今後も続いていくと見られる。

小規模校に関しては、メリットとデメリットの両面あり、議論の分かれるところであるが、小規模校では、学習や生徒の指導の面や学校運営の面で問題があり、この問題を解決するためには、一定の学校規模を確保する必要がある。

基本方針では、中学校の適正規模を12～18学級としており、適正規模を確保するための方法としては、統廃合又は通学区域の拡大が考えられるが、入曽地区の中学校については、各校とも、適正規模を下回る状況にあるなかでは、通学区域の拡大により適正規模を確保することには難しい面がある。

そこで、入曽地区の中学校については、統廃合の方法により学校の規模と併せて配置の適正化を図る必要がある。

4 中学校の統廃合に関する基本的な合意事項

本協議会では、入曽地区の中学校の統廃合について、具体的に検討協議を進め、次のとおり合意した。

(1) 統廃合の対象校

入曽地区の中学校については、1校を統廃合することとし、具体的には、中学校3校の立地条件、敷地の狭隘度、施設の状況等を総合的に勘案し、入間中学校を統廃合の対象とする。

(2) 通学区域の見直し

入間中学校を統廃合の対象とすることに伴う通学区域の見直しについては、主に適正規模の確保の視点から見直しを行い、「資料1」のとおり、入間中学校区内を通る西武新宿線の線路を境に、西側の区域を入間野中学校の通学区域に、東側の区域を山王中学校の通学区域に編入する。ただし、線路東側の区域については、入間野中学校への通学も可能とする。

また、入間野中学校の通学区域のうち、御狩場小学校区の部分については、山王中学校の通学区域に編入する。ただし、御狩場小学校区内に居住して入間野中学校に通学している生徒で、統廃合時に中学2年生と中学3年生になる生徒については、山王中学校に移らず、入間野中学校に在籍したまま卒業することも可能とする。

(3) 統廃合の時期

統廃合の時期については、平成27年4月とする。

(4) 統廃合の方法

入間中学校を廃止し、山王中学校及び入間野中学校をそのまま存続させることとし、統廃合の方法は編入統合とする。

(5) 統廃合後の中学校の名称

入間中学校を山王中学校及び入間野中学校に編入統合することに伴い、両校の名称は、そのまま継続する。

5 統廃合後の中学校の生徒数等の見通し

生徒数・学級数の推計

区 分	H27	H28	H29	H30	H31
山 王 中	370 (13) 11 (3)	420 (13) 12 (3)	409 (13) 12 (3)	402 (13) 12 (3)	391 (13) 12 (3)
入間野中	587 16	530 14	483 13	457 13	488 13
合 計	957 (13) 27 (3)	950 (13) 26 (3)	892 (13) 25 (3)	859 (13) 25 (3)	879 (13) 25 (3)

- 1) 上段は生徒数、下段は学級数で、()内は特別支援学級で外数。
- 2) 学級数は、中学1年生は38人、中学2・3年生は40人で算出。
- 3) 統廃合時に中学2年生または中学3年生になる入間野中学校の在校生については、全員が入間野中学校に在籍したまま卒業するとして推計。

平成27年の統廃合後は、山王中学校及び入間野中学校ともに、学級数については、ほぼ適正規模の範囲で推移することが見込まれる。

6 統廃合に伴う通学路の取扱い

(1) 統廃合後の通学路

入曽地区の中学校の統廃合に伴い、統廃合後の通学路については、山王中学校は「資料2」のとおりとし、入間野中学校は「資料3」のとおりとする。ただし、今後の道路整備等の状況を踏まえて、ルートの変更等に関しては、柔軟に対応されたい。

(2) 通学路の安全対策

入曽地区の中学校の統廃合に伴う通学路の安全対策とし、次の点に配慮されたい。

- ・ 外側線の新設及び再標示
- ・ 路面標示（「注意通学路」、「スピード落せ」）の新設及び再標示
- ・ 横断歩道の再標示
- ・ 街路灯の設置
- ・ ポストコーンの設置

(3) 自転車通学

山王中学校は、既に自転車通学が認められているところであるが、入間野中学校の生徒のうち、通学距離が概ね2 km以上になる生徒については、自転車による通学を検討されたい。

7 統廃合に伴う制服等の取扱い

(1) 制服

平成27年4月の統廃合時に、入間中学校から山王中学校又は入間野中学校に編入する中学3年生の制服については、保護者の経済的負担を考慮し、入間中学校で着用していた制服をそのまま着用されたい。

なお、平成26年4月に入間中学校に入学する中学1年生の制服については、制服検討委員会で実施したアンケート調査の結果を踏まえて、1年早くから、山王中学校又は入間野中学校の制服を着用されたい。

(2) 運動着等

平成27年4月の統廃合時に、入間中学校から山王中学校又は入間野中学校に編入する中学3年生の運動着、上履き等については、保護者の経済的負担を考慮し、入間中学校で着用していたものをそのまま着用されたい。

なお、買い替え等が必要な場合は、山王中学校又は入間野中学校の指定のものを購入されたい。

また、平成26年4月に入間中学校に入学する中学1年生の運動着、上履き等については、1年早くから、山王中学校又は入間野中学校の指定のものを着用されたい。

なお、入間中学校から山王中学校又は入間野中学校に編入する生徒の名札については、市から支給されたい。

(3) 部活動のユニフォーム

平成27年4月の統廃合時に、入間中学校から山王中学校又は入間野中学校に編入する中学2年生及び3年生の部活動のユニフォームについては、可能な限り市から支給されたい。

8 統合先の中学校の環境整備

(1) 山王中学校

- 校舎について、冷房機能を含む空調設備の改修を早期に実施されたい。
- 普通教室の天井、床、ロッカー等、必要な改修を行うとともに、上下昇降式の黒板へ変更されたい。
- 廊下について、全面的に改修されたい。
- 校内放送設備を早急に改修されたい。
- トイレについて、洋式トイレの増設を含めて、改修されたい。
- グランドについて、不陸整正するとともに、バレーコートのコングリート舗装を取り払い、グラウンド部分の拡充を図られたい。
- 自転車駐輪場について、再塗装するとともに、屋根を修繕されたい。

(2) 入間野中学校

- 生徒数の増加に伴い、特別教室の一部を普通教室に転用する工事を実施するとともに、少人数指導、進路指導、生徒会活動等に必要な教室は引き続き確保されたい。
- トイレについて、洋式トイレの増設を含めて、改修されたい。
- 部活動の充実のため、新設する部活動の活動場所を確保するとともに、テニスコートを一面増設し、現在のバレーコートと併用で使用できるように整備されたい。
- グランドについて、ダストにより舗装されているが、降雨や強風で平面が削られているため、再度、ダスト舗装されたい。
- 自転車で通学する生徒が生じる見込みであることから、校地内に自転車駐輪場を整備されたい。

9 統廃合にあたっての留意事項

統廃合にあたっては、検討協議会での検討協議や保護者アンケート調査等の結果を踏まえ、次の点に留意されたい。

- 統合先の山王中学校及び入間野中学校については、それぞれ培ってきた校風や特色があるが、入間中学校の校風や特色もできるだけ活かすよう、十分に調整を図る必要がある。
- 教育活動のより一層の充実に向けて、入間中学校で実施している取組については、できるだけ取り入れて実施する必要がある。なお、これに関連して、平成25年度より、入間中学校と山王中学校及び入間中学校と入間野中学校の各分掌の担当者等による連絡調整会議を設置し、統廃合後の管理運営事項等についての調整を開始し、平成26年度には、統合準備委員会を設置し、遺漏のないよう準備を進める必要がある。
- 統合先の中学校の環境整備や学校運営等に関して、学校や保護者からの要望に対しては、予算面等で十分に配慮する必要がある。
- 統廃合の準備を行うにあたっては、保護者の意見や要望等を十分に踏まえるとともに、統廃合を機に、学校の常時公開や教育懇談会の開催等、開かれた学校づくりに向けての取組みをより一層充実させる必要がある。
- 新教育課程による学習内容の増加に伴い、学習内容に未履修が生じないよう各教科の指導計画の調整を図るとともに、新たなカリキュラムを構築されたい。
- それぞれの中学校で実施してきた部活動を継続させるとともに、可能な範囲で部活動の新設を図り、生徒の選択の幅を広げることが必要である。また、統廃合後の部活動の円滑な運営のため、事前に合同練習を取り入れるとともに、統廃合当初は、市内大会については、出場枠の拡大などについて配慮する必要がある。
- 各種の学校行事や校外活動については、事前に、学校間で十分な調整を図るとともに、特に、統廃合初年度の修学旅行については、時間の余裕をもって実施する配慮が必要である。
- 統廃合による生徒の精神的な負担を減らし、スムーズに生徒間の融和が図られるように、入間中学校の教員の一部を山王中学校と入間野中学校に配置するとともに、臨時教員の配置や、さやまっ子相談員の配置について配慮する必要がある。統廃合当初より、円滑な学校運営が図られるよう、事前に学校見学の機会を十分に確保するとともに、学校行事の合同実施など、事前交流を十分に行う必要がある。

10 跡地の活用等

- 入間中学校の跡地については、貴重な公共用地であることから、土地利用上の制約はあるが、中学生や小学生の利用にも配慮し、市民の文化活動など様々な活動の拠点として、地域の活性化に寄与するよう、また、災害時の避難所の確保等の地域の要望にも十分配慮して、具体的な計画づくりに取り組まれない。
- 入間中学校の歴史を後世に残すようなメモリアルルームや記念碑等を設置されたい。
- 現存する入間中学校の校歌の碑及び植栽を含む岩石園等については、入間中学校の跡地利用を計画するにあたり、設置場所等を配慮されたい。

11 説明会の開催等

入曽地区の中学校の統廃合について具体的に検討を進めるなかで、次のとおり、関係する保護者等に対して説明会を開催するなどして、統廃合に対する意見の把握や理解の醸成に取り組んだ。

(1) 保護者への説明

① 保護者対象説明会

平成24年	6月30日(土)	入間中学校
平成24年	9月14日(金)	南小学校
平成25年	1月19日(土)	御狩場小学校
平成25年	4月13日(土)	南小学校(会場は入曽公民館)
平成25年	5月11日(土)	御狩場小学校
平成25年	5月18日(土)	入間中学校
平成25年	7月10日(火)	入間野中学校
平成25年	10月28日(月)	御狩場小学校
平成25年	10月30日(水)	山王中学校
平成25年	10月31日(木)	南小学校
平成25年	11月2日(土)	入間野中学校(午前開催)
平成25年	11月2日(土)	入間中学校(午後開催)
平成25年	11月10日(日)	入曽公民館

② P T A役員対象説明会

平成24年 7月12日(水) 南小学校(P T A運営委員会)

平成24年 9月 1日(土) 入間中学校(P T A運営委員会)

平成25年 6月 6日(水) 山王中学校(家庭教育学級)

(2) 保護者アンケート調査等の実施

① 保護者対象説明会の出席者に対するアンケート調査

平成24年6月～平成25年11月

② 入間中学校の保護者に対するアンケート調査 ※「資料4-1」

平成25年6月

③ 南小学校の保護者に対するアンケート調査 ※「資料4-2」

平成25年6月

④ 入間野中学校の保護者に対するアンケート調査 ※「資料4-3」

平成25年7月

⑤ 山王中学校の保護者に対するアンケート調査 ※「資料4-4」

平成25年7月

⑥ 御狩場小学校の保護者に対するアンケート調査 ※「資料4-5」

平成25年9月

⑦ 南小学校への意見箱の設置

平成24年10月～

⑧ 入間中学校への意見箱の設置

平成25年4月～

(3) 地域住民への説明

① 入曽地区自治会連合会への説明

平成24年 3月17日(土)

平成25年 4月22日(土)

平成25年10月19日(土)

② ホームページ

平成23年1月～

③ 自治会回覧

平成25年11月

(4) 統合先の中学校の見学

- ① 山王中学校見学会
平成25年11月18日(月)
- ② 入間野中学校見学会
平成25年11月15日(金)

12 検討協議会の検討経過

入曽地区中学校統廃合検討協議会での検討状況は、次のとおりである。

(1) 検討協議会の検討状況

第1回(平成23年1月20日)

基本方針の内容を確認したうえで、入曽地区の中学校の現状、生徒数及び学級数の今後の見込み、小規模校の課題等について説明した。

第2回(平成23年5月25日)

入曽地区の中学校を統廃合した場合の効果及び課題を挙げながら、統廃合の必要性について意見を交わした。

第3回(平成23年7月21日)

小規模校(11学級以下)の問題点や課題を踏まえて、小規模化が進む入曽地区の中学校の問題点について意見を交わした。

第4回(平成23年8月24日)

入曽地区の中学校について、統廃合を進めていく方向で意見が集約された。

第5回(平成23年10月5日)

入曽地区の中学校の統廃合については、入間中学校を統廃合の対象校として、今後、具体的な検討を進めることが合意された。

合意事項

入曽地区の中学校の統廃合については、校舎の老朽度や運動場の面積などを総合的に勘案し、入間中学校を統廃合の対象校とし、今後は、通学区域の見直しや統廃合の時期等について、具体的に検討を進める。

第6回（平成24年1月27日）

小学校関係者を検討協議会委員に加えること及び通学区域の見直しを検討する部会（学区部会）を設置することが確認された。

第7回（平成24年3月21日）

平成24年度の検討協議会の委員構成及び学区部会の委員構成について検討した。

第8回（平成24年12月19日）

学区部会での検討状況が報告された。

第9回（平成25年3月14日）

学区部会での検討結果を踏まえて、特別許可地区を設定した通学区域の見直しの内容及び統廃合の時期について合意された。

合意事項

・通学区域の見直し

入間中学校区内を通る西武新宿線の線路を境に、西側の区域を入間野中学校の通学区域に、東側の区域を山王中学校の通学区域に編入する。ただし、山王中学校の通学区域となる線路東側の区域については、入間野中学校への通学も可能とする。

また、入間野中学校の通学区域のうち、御狩場小学校区の部分を山王中学校の通学区域に編入する。ただし、御狩場小学校区内に居住して入間野中学校に通学している生徒で、統廃合時に中学2年生と中学3年生になる生徒については、山王中学校に移らず、入間野中学校に在籍したまま卒業することも可能とする。

・統廃合の時期

統廃合の時期については、平成27年4月とする。

第10回（平成25年6月5日）

統合先の中学校の名称については、現行のままとすることが合意された。また、提言（入曽地区の中学校の統廃合に関する計画）の内容について検討した。

合意事項

統廃合の方法は、編入統合とし、統合先の中学校の名称については、山王中学校及び入間野中学校のままとする。

第11回（平成25年7月24日）

提言（入曽地区の中学校の統廃合に関する計画）の内容について検討した。

第12回（平成25年10月23日）

提言（入曽地区の中学校の統廃合に関する計画）の内容について検討した。また、通学路について、検討協議会の委員が調査することとした。

・通学路実地調査

下校時間帯に、想定される通学路を協議会委員が自転車や徒歩により実際に通行し、通学路の状況を調査した。

11月5日 入間野中学校から水野公民館までの2ルート

第13回（平成25年11月26日）

提言（入曽地区の中学校の統廃合に関する計画）の内容について検討した。

（2）学区部会の検討状況

第1回（平成24年6月20日）

通学区域の見直し案を提示し、これについて検討した。

第2回（平成24年7月25日）

通学区域の見直し案について検討した。

第3回（平成24年9月25日）

想定される通学路について、学区部会委員が調査することとした。

・通学路実地調査

登校時間帯に、想定される通学路を学区部会委員が実際に歩き、通学路の状況を調査した。

10月10日 石山記念病院近辺から山王中学校まで 約4.1km

10月12日 水野公民館から入間野中学校まで 約2.8km

第4回（平成24年11月21日）

通学区域の見直し案について検討した。

第5回（平成25年2月5日）

通学区域の見直しについては、西武新宿線の線路を境に、西側の区域を入間野中学校の通学区域に、東側の区域を山王中学校の通学区域に編入すること等が合意された。

13 むすびに

本協議会は、保護者、自治会関係者、地域住民の代表及び関係する小中学校の学校長で構成され、「入曽地区の中学校の統廃合に関する計画」の策定にあたり、以下の3点を基本に検討協議を重ねてまいりました。

- 1 生徒、保護者及び学校関係者はもちろん、地域住民の納得が得られる結論を出す。
- 2 更なる教育環境の改善と指導の充実につなげる。
- 3 教育予算を効率的かつ効果的に執行する。

また、2年半余りにわたる検討協議では、委員それぞれの立場で、率直に意見を交わすとともに、保護者の意向を把握するため、説明会やアンケート調査、現地調査など、出来る限りの対応をとってまいりました。

その結果、生徒数の減少が見込まれるなかで、より良い教育環境を整えていくためには、中学校の統廃合は避けては通れないものとして、検討協議の結果を、この度、「入曽地区の中学校の統廃合に関する計画」としてとりまとめ、提言するものであります。

教育委員会におかれましては、本提言を踏まえて、教育活動のさらなる充実と発展が図れるよう、入曽地区の中学校の統廃合に鋭意取り組んでいただきたいと思っております。

結びに、本協議会の委員の皆様には、ご多用のなか、熱心に検討協議に臨んでいただいたところであり、心より感謝を申し上げます。

統廃合を機会に、地域の学校に対する理解がより一層深まり、地域が支える学校づくりに向けて、地域の支援の輪が広がることをご祈念申し上げます。

平成25年11月

入曽地区中学校統廃合検討協議会
会長 鈴木 強